

学校教育目標	☆かがやくひとみ さわやかえがお まごころいっぱい かさまの子 【かがやく瞳で意欲的に学ぶ子】ともに学ぶ楽しさを実感し、多様な考えから自己の考えを深め、意欲的に学び続けようとする子を育てます。(知) 【さわやか笑顔で挨拶する子】積極的なコミュニケーションを通して、共感的な理解や合意形成を図りながら、共に生きていこうとする子を育てます。(開) 【まごころいっぱい思いやりのある子】身近な自然や人との交流を通して共感する心を大切に、よいと思ったことを進んで行おうとする子を育てます。(徳) 【のびのび心も体も健康な子】体を動かす楽しさを知り、自他の心身を大切にすることをもち、自ら健やかな体づくりに取り組もうとする子を育てます。(体) 【このまちを愛する子】地域の人やものに興味・関心をもちながら進んでかわり、社会のために自分ができることを考えて行動する子を育てます。(公)				
	創立 45 周年 児童生徒数: 498 人	学校長 中西 建介 主な関係校: 西本郷中学校・西本郷小学校	副校長 池村 聡一郎	2 学期制	一般学級: 17 個別支援学級: 5

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力 <言語能力> <問題発見・課題解決をする能力> <自分づくりに関する力>	西本郷中 ブロック 西本郷中学校 空間小学校 西本郷小学校	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組 小中9年間でコミュニケーション能力を高め 主体的に「まち」で生きる子どもたちを育てます。 ・「特別支援の充実」をブロック授業研のテーマとして設定し、各教科等域において テーマを意識した授業を展開する。(ブロックで年2回実施) ・活動に子どもの声を入れながら、児童生徒の交流日や行事の交流を通して、小中 間の連携を図る。 ・授業参観や各種会議を通して、ICTの効果的な活用の充実を図り、育てる資質・能 力、目指す子ども像や教師像を共有する。
--	---	---

中期取組目標	1. 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業力を向上させ、データを活用しながら子どもが楽しさを実感できる授業づくりをめざします。 2. すべての子どもに全教職員で関わる姿勢を大切に、子どもの思いや願いに寄り添いながらチームで指導や支援を行います。 3. 道徳科の授業の充実や親和的な学級づくり、人とのかわりや行事を通して、互いのよさや違いを認め合い、思いやりの心を育てます。 4. 子どものまちへの思いを引き出し、「人・もの・こと」と関わる豊かな体験を通して、地域を愛する心を育てます。 5. 各教職員が自己研鑽に励み、データを活用しながら学校をよりよくしようと協働できる組織をつくります。
--------	---

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①教育課程全体で身に付けさせたい資質・能力を「言語能力の育成」として、横浜市学力・学習状況調査の調査結果や子どもたちの状況を踏まえ、単元や一単位時間で育成を目指す資質・能力を明確にした授業改善を行う。②「自ら考え、生き生きと学びあう子を目指して～豊かに表現し伝え合う子を育てるには～」とし、国語科の時間を中心に、子どもが思いをもって言葉を選びながら伝え合い、相手から表現されたことを受け自分の考えを深める対話的な学びの姿を目指す。
担当	重点研推進委員会	
徳	豊かな心	①豊かな心の育成を目指して、道徳科を要として、ふれあいやたてわり、体験活動など学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を推進する。②道徳科年間指導計画に沿った、全学級の道徳科授業公開を年一回以上実施する。③運動会やドレミファコンサートなど様々な行事を通して、互いのよさを認め合ったり、子どもの情操を高めたりする。
担当	人権委員会・道徳部	
体	安全・健康教育	①自分の体調に関心をもち、衛生に気を付けるとともに、健康診断や体力・運動能力調査の分析に基づいて、学校保健委員会の充実を図り、児童の健康や安全に対する意識を高める。②体育委員会の児童を中心に企画運営している長縄(チャレンジタイム)に継続して取り組み、体力向上を目指す。③給食や学習内容に沿った内容を取り上げ、食への関心を高める機会をつくる。
担当	安全・健康委員会	
公開	地域連携	①すぐーるのタイムラインやHPを活用して保護者・地域に向け教育活動について発信し、学校教育への理解を深める。②地域コーディネーターと連携し、地域の教材開発や人材開発をして、子どもの生活や学びにいかす。③地域とのかかわりについて児童とともに考え、感謝の気持ちをもてるようにする。校内の地域連携掲示板やHPなどを活用し、保護者や地域、児童に地域とのかかわりを伝える。
担当	地域連携委員会	
いじめへの対応		①いじめを許さない姿勢学級学校づくりに努める。年2回のY-Pアセスメントと記名式の生活アンケートを実施し、いじめを見逃さないようにする。②「いじめ防止対策委員会」を定期的に開催し、情報共有して職員が同じ視点で対応する。いじめの情報はすぐに職員で共有し、管理職を中心にしてチームで対応する。③「子ども会議」などをきっかけに、児童が主体的にいじめの未然防止に取り組む活動を推進する。
担当	いじめ防止対策委員会	
人材育成・組織運営(働き方)		①ICT機器を活用して効率化や共有化、業務精選を続け、教務会や職員会議、チーム学年経営やメンターチームなど全職員の組織的な働き方改革を実施する。②全職員でのりしろを出し合い「チームかさま」で学校運営を行うとともに、学年組織や校務分掌の中でOJTを通して将来像をイメージしたり仕事を覚えたりすることを続ける。
担当	教務部・メンターチーム	
特別支援教育		①職員研修を行い、児童や保護者に寄り添い対応できるスキルの向上を図るとともに、安心して学べる環境づくりに努める。②個別支援級、配慮を必要とする児童の個別的教育支援計画・指導計画を作成し、保護者と連携する。特別支援校内委員会を開催し、必要な支援について全職員で共通理解をはかる。③児童の実態と指導経過を月1回、全教職員で共通理解し、チームで対応できるようにする。
担当	特別支援委員会・コーディネーター	
児童指導		①挨拶の大切さを繰り返し児童に伝え、自分から気持ちのよいコミュニケーションができるように支援する。全校であいさつに取り組めるように代表委員会の議題にして取り組み、中学校ブロックでも協力する。②全職員が「空間スタンダード」の内容・意義を共有し、指導の一貫性を図るとともに、職員は情報を共有しながら専任が中心となってチームで対応する。
担当	児童指導委員会	
幼稚園・保育園との連携・協力		①子どもの思いを大切にしながら、幼稚園・保育園の学びを生かしたスタートカリキュラムや授業展開を工夫する。特に、幼稚園・保育園の表現領域と小学校の音楽科、図画工作科とのなめらかな接続を継続する。②小学校1年生と幼稚園児・保育園児の交流や5年生と年長児の交流を通して、児童の意見を積極的に取り入れ、ICTを効果的に活用しながら、企画力や実践力をつけたり、下学年を思いやる気持ちを育てたりする。
担当	地域連携委員会・幼保小担当	
GIGAスクール構想の促進		①一人一台端末を学習を深めるための道具の一つとして活用するとともに、その時々合った活用の仕方を児童が考えられるように指導する。②「情報教育で育む資質・能力 体系表」をもとに、発達段階に応じた情報モラルの育成を図る。③家庭との連絡ツール「すぐーる」を活用し、承諾書や水泳カード等を電算化し、家庭と学校のどちらにとっても効率化を図る。
担当	GIGAスクール担当	